

財団法人大阪府文化財センター 小テーマ展示 シリーズ ここまでわかった考古学

しゅつどもつき が かたる こうこがく

出土木器が語る考古学

弥生時代・古墳時代の諸様相

やよいじだい・こふんじだいのしょうそう

開催期間：平成 19 年 3 月 3 日（土）～4 月 8 日（日）

主催／財団法人大阪府文化財センター

大阪府立近つ飛鳥博物館

開催場所：大阪府立近つ飛鳥博物館 特別展示室

後援／近畿日本鉄道株式会社

ごあいさつ

かわちへいや ていしっち
河内平野という広大な低湿地をもつ大阪では、
だいきぼちょうさ
大規模調査が手がけられた、1960 年代後半以降、多くの出土木器が報告されてきました。

しかし、土器や石器に比べ、恵まれた環境下でしか残らない木器は、全国的にも出土類例が少なく、その検証は終始、機能の解明に重点が置かれてきました。このため、木器自体がもつ豊富な情報量に目が向けられず、その特徴を十分に検証できなかったという経緯があります。

21 世紀を迎えた今日、出土木器の報告は、全国の遺跡からきこえるようになり、その情報量はひやくてき
飛躍的に増加しました。研究も進み、機能の解明をする段階から、出土木器そのものを使って、遺跡や地域の動態を解明しようとする動きが活発となっています。

土器と同様、時間軸と地域色を相対比較することによる編年の構築、器種構成から集落の性格を導き出そうとする視点、用材の樹種同定結果から、材の調達と古環境との関連を指摘する研究など、その多様性は枚挙にいとまがありません。

また、土器や石器・金属器など他の素材を使った用具の変遷と木器のそれとを対比させた複合的な研究も進められています。これまで、特殊な遺物として扱われてきた木器が、考古学研究の新たな系口として、有力視されているといっても過言

ではありません。

かつて、私たちの身の回りには、木でできた道具があふれていました。建築材、食器、各種の生産具、祭祀具にいたるまで、木は、人間の生活様式にもっとも密着した素材であったといえます。

今回の企画展示では、大阪府内から出土した、弥生時代と古墳時代を中心とした木器にスポットをあてて、当時の人々の生活が、どのようなものであったのかを描きます。

また、出土木器の変遷に着目して、集落に暮らした人々の生活が、どのようにうつりかわっていったのかを、近年の研究成果と照らしあわせて、さぐりたいと考えます。



写真 1 もくせいしよつきぶざい
木製織機部材出土状況

枚方市茄子作遺跡（古墳時代中期～後期）

I. 交錯する文物

木器のうち、もっとも出土数が多く、また形状を分類できるのものに、農耕土木具があります。掘り棒とよばれる掘削具は縄文時代からありましたが、鍬や鋤などは、耕地の造営や稲作の道具として日本へ伝えられました。

これまで、稲作文化は北部九州を玄関として、西日本全域へと伝えられたと考えられてきました。しかし、大阪を含む弥生時代前期の近畿では、九州で多用された諸手鍬とともに、山陰地域で使用された透かし孔をもつ広鍬が使われはじめます。

一方、弥生時代中期には、東海系曲柄鍬の導入があり、後期には北陸型の広鍬が、持ち込まれた例があります。弥生時代後期から古墳時代初頭に大阪で盛行したなすび形曲柄鍬は、山陽地域で発生し、近畿へと伝えられました。

また、古墳の築造をはじめとした大規模な土木工事には、鉄刃付き曲柄鍬が多用されましたが、この鍬身は、古墳時代中期以降、近畿から各地へと運ばれ、普及していきました。

このように、広範囲にわたる文物の伝来が重なって、各地の文化が形成されたことが、木器の器種組成の変化からもわかってきました。



図1 展示・リーフレットで紹介する遺跡の位置図

写真2 出土した農耕土木具

- 1) 東大阪市瓜生堂遺跡出土
直柄平鍬身（弥生時代前期）
- 2) 東大阪市瓜生堂遺跡出土
直柄又鍬身（弥生時代中期）
- 3) 東大阪市瓜生堂遺跡出土
直柄平鍬身（弥生時代中期）
- 4) 八尾市亀井遺跡出土
直柄平鍬身（弥生時代中期）
- 5) 東大阪市新家遺跡出土
一木鋤（弥生時代後期）
- 6) 東大阪市西岩田遺跡
曲柄鍬身（弥生時代後期）
- 7) 茨木市溝作遺跡出土 一木鋤
（弥生時代中期～古墳時代前期）



Ⅱ. 権威の表象

木器には、同じ器種でありながら、彩色や精緻な彫刻によって装飾された製品と、まったく装飾されていない製品とがあります。飾られた木器は、早くから、威信財としてあつかわれてきました。

弥生時代のはじめに登場する、漆で赤色と黒色に塗り分けられた美しい容器類は、拠点集落とよばれるような、大集落から出土します。また、個人の服飾具である、漆で塗り固められた櫛も、一般の集落からみつかることは少なく、限られた人々が身につけていた木器だったと思われます。有力者を埋葬した古墳の副葬品として、多数の櫛が納められているのは、生前の愛用品であったという以上に、権威の象徴としてあつかわれた証といえます。

飾られた木器の器種をみると、弥生時代と古墳時代とは、大きく異なっています。容器や服飾具を飾りたてた弥生時代に比べ、古墳時代には武器や馬具、儀仗やきぬがさなどが威信財の主体となります。一般民衆との格差を念頭に置いた弥生時代の首長と、武力において他の集団との競合を重視した古墳時代の首長…。両時代の飾られた木器は、それぞれの時代において集落を率いた首長の性格が、まったく異なっていたことを、如実に示しています。



写真3 弥生時代の漆塗りの弓

- 1) 八尾市亀井遺跡出土飾り弓 (弥生時代中期)
- 2) 八尾市山賀遺跡出土飾り弓 (弥生時代中期)



写真4 彩色された櫛

- 1) 茨木市東奈良遺跡出土櫛 (弥生時代後期)
[茨木市教育委員会 所蔵]
- 2) 巨摩遺跡出土櫛 (弥生時代後期)



写真5 集弦孔をもつ琴板 (表面)
堺市下田遺跡出土琴板
(古墳時代初頭)



写真6 筑の頭部
茨木市溝咋遺跡出土筑状弦楽器
(古墳時代後期)



写真7 きぬがさの軸受
堺市下田遺跡出土きぬがさ軸受 (古墳時代前期)
[写真提供=堺市教育委員会事務局文化財課]

Ⅲ. 変化した木器

工具の変化 斧柄をはじめとする工具の木製部分は、石器から鉄器へと移行する時代の動きに対応して、大きくその姿を変えました。

斧柄には、柄の先端に孔をあけて刃を通す直柄と、屈曲した柄の曲柄、刃または刃を装着した台に柄を差し込んだ雇柄の3種があります。

このうち、樹木の伐採には主として直柄斧が使われましたが、太型蛤刃石斧を差し込むため、大きく頭を作って重量を増した弥生時代前期までのものに比べ、薄い板状鉄斧を差し込んだ弥生時代後期のものは、握り基部から頭部まで、均一な太さへと近づきます。古墳時代になると、袋状鉄斧を台に装着した雇柄斧が使用されはじめますが、こ



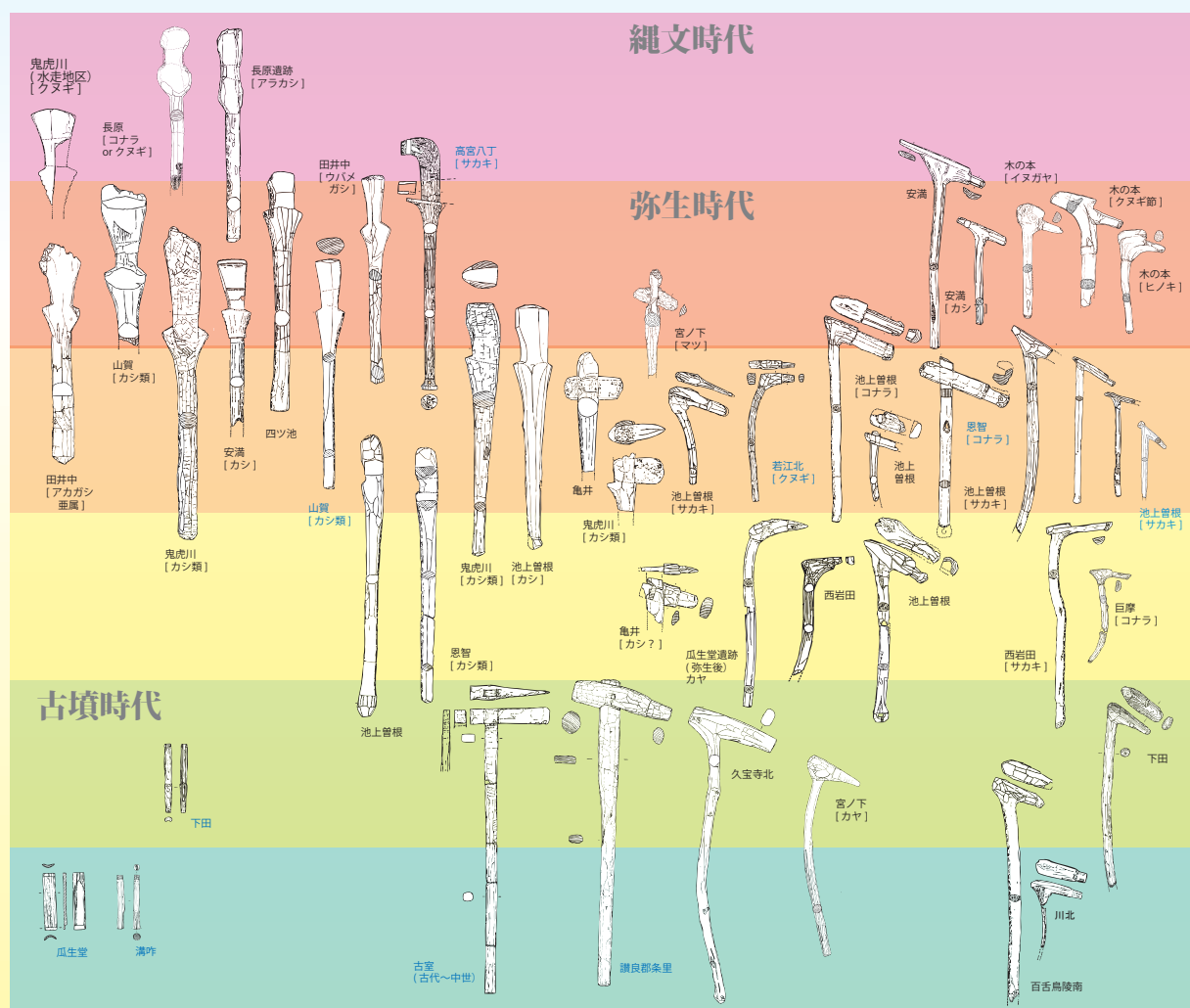
1



2

写真8 石斧と鉄斧

- 1) 八尾市山賀遺跡石斧柄（弥生時代前期）
 - 2) 羽曳野市古室遺跡出土鉄斧（古代～中世）
- 〔大阪府教育委員会 所蔵〕



第3図 工具の種類と変遷

※青字は展示品

これらの変化は、鉄製品の一般集落への普及と、大きく連動^{れんどう}していました。

また、加工用である小型の曲柄斧が、弥生時代中期以降、あまり使われなくなり、かわって鉋^{やりがんな}や銚^{きり}、鑿^{のみ}、刀子^{とうす}など、鉄製小型工具がさかんに使われるようになりました。

調度^{ちょうど} 一方、木器の変化は、道具の変化だけでなく、人間がもつ技術の変化も示しています。

弥生時代には、一木つくりの割物の椅子や脚付き作業台が作られていました。しかし、弥生時代後期～古墳時代初頭には、割物に加え、座板^{ざいた}と脚を別材で作る指物技法^{さしもの}の椅子が、さかんに作られるようになりました。このなかには、天板に角度をつけたほぞ孔をうがって、脚が左右へ開くように工夫された精製品もみられます。

また、天板の裏側に断面が逆台形となるような溝を切り、これに対応する先端部をもつ脚を装着した「蟻溝加工^{ありみぞ}」の机が作られました。この加工には、規矩術^{きく}という、それまで日本にはなかった



写真9 指物椅子の座板

堺市下田遺跡出土椅子の座板（古墳時代初頭）



1



2

写真10 指物机の脚二種

- 1) 東大阪市瓜生堂遺跡出土机脚（弥生時代後期）
 - 2) 寝屋川市讀良郡条里遺跡出土机脚（古墳時代中期～後期）
- [大阪府教育委員会 所蔵]



写真11 長辺に脚をもつ割物椅子

八尾市久宝寺遺跡出土椅子（古墳時代前期）

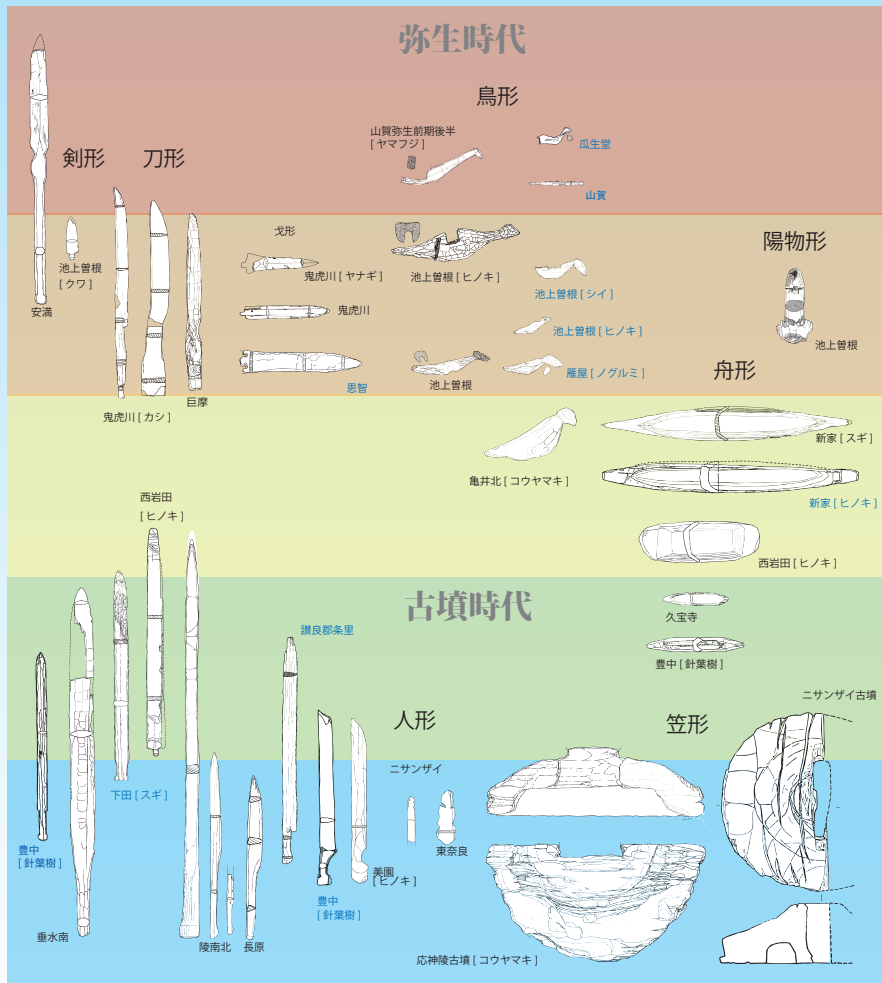


写真12 割物椅子を象った椅子形埴輪^{かたど}

東大阪市巨摩1号墳出土椅子形埴輪（古墳時代中期）

写真13 蟻溝加工の机天板（裏面）

枚方市茄子作遺跡出土机天板（古墳時代前期～中期）



第4図 祭祀具の種類と変遷 (S=1/20)

※青字は展示品



写真14 土器を模した
儀仗状木製品

堺市四ツ池遺跡(弥生時代中期)
[大阪府教育委員会 所蔵]

技術が使われました。規矩術は、^{とらいけい}渡来系の技術者が、日本へ伝えたものと考えられています。

ただし、新しい技術は、やみくもに既存の木器に応用されたわけではなく、新しい器種を作る必要に応じて、導入されたと思われます。

指物調度が増える中、割物椅子は、古墳時代後期にも少量ながら受け継がれます。古墳祭祀の場では、割物椅子を象った椅子形埴輪が使用されていました。

祭祀具 木で作られた祭祀具には、実用品を模した形代があります。

大阪では、^{とりがた}鳥形は弥生時代後期以降は少なく

なり、かわって^{ふながた}舟形・武器形・馬形・^{ひとがた}人形が多用されるようになりました。特に、古墳時代後期には^{りつりょうさいし}じまる人形の使用は、後の律令祭祀へとつながるものとして、注目されます。特に渡来系の集落では、早い時期から人形を使っていたことが、近年の発掘調査から明らかとなりました。

私たちが使う生活道具は、より簡便なもの、安価なものへと移り変わり、木がもつすぐれた特質も忘れつつあります。出土木器は、私たち日本人と木との深い結びつきを、語り伝えてくれる存在だといえるでしょう。

協力機関

泉大津市教育委員会・茨木市教育委員会・茨木市立文化財資料館・大阪府教育委員会・大阪府立弥生文化博物館・大阪歴史博物館・財団法人大阪市文化財協会・堺市教育委員会・四條畷市教育委員会・四條畷市立歴史民俗資料館・大東市教育委員会・寝屋川市教育委員会・高槻市教育委員会・東大阪市立郷土博物館・八尾市立歴史民俗資料館 (五十音順)

展示品一覧

No.	遺跡名	展示品名	時 期	No.	遺跡名	展示品名	時 期
1	瓜生堂遺跡	直柄平鍔身	弥生時代前期	44	中野遺跡	馬形木製品	古墳時代中期
2	瓜生堂遺跡	直柄又鍔身	弥生時代中期	45	恩智遺跡	戈形木製品	弥生時代中期
3	亀井遺跡	直柄平鍔身・柄	弥生時代中期	46	下田遺跡	刀形木製品	古墳時代初頭
4	西岩田遺跡	曲柄平鍔身	弥生時代後期	47	讃良郡条里遺跡	刀形木製品	古墳時代中期～後期
5	下田遺跡	曲柄又鍔身	古墳時代初頭	48	豊中遺跡	剣形木製品	古墳時代後期
6	讃良郡条里遺跡	直柄横鍔身	古墳時代中期	49	豊中遺跡	刀形木製品	古墳時代後期
7	高宮八丁遺跡	一木鋤	弥生時代前期	50	溝咋遺跡	琴板	弥生時代中期
8	新家遺跡	一木鋤	弥生時代後期	51	瓜生堂遺跡	筑状弦楽器	弥生時代中期
9	溝咋遺跡	一木鋤	弥生時代中期～古墳時代前期	52	溝咋遺跡	筑状弦楽器	古墳時代後期
10	下田遺跡	一木鋤	古墳時代前期	53	下田遺跡	琴	古墳時代前期
11	宰相山遺跡	一木鋤	飛鳥時代	54	溝咋遺跡	琴	古墳時代前期
12	東奈良遺跡	竪杵	弥生時代前期	55	森の宮遺跡	竪櫛	縄文時代後期
13	下田遺跡	竪杵	古墳時代前期	56	安満遺跡	簪	弥生時代前期
14	池上曽根遺跡	小型杵	弥生時代中期	57	巨摩遺跡	竪櫛	弥生時代後期
15	東奈良遺跡	小型杵	古墳時代後期	58	東奈良遺跡	竪櫛	弥生時代後期
16	木の本遺跡	馬鍔	古墳時代前期	59	若江北遺跡	簪	弥生時代後期
17	鬼虎川遺跡	矢柄付石鍔	弥生時代中期	60	小阪合遺跡	横櫛	古墳時代前期～中期
18	木の本遺跡	飾り弓	弥生時代前期	61	東奈良遺跡	腕輪	弥生時代後期
19	亀井遺跡	飾り弓	弥生時代中期	62	池島・榎万寺遺跡	高杯（レブリカ）	弥生時代前期～中期
20	山賀遺跡	飾り弓	弥生時代中期	63	鬼虎川遺跡	高杯	弥生時代前期～中期
21	亀井遺跡	櫛	弥生時代後期	64	鬼虎川遺跡	高杯	弥生時代前期～中期
22	下田遺跡	短甲	古墳時代初頭	65	東奈良遺跡	高杯	弥生時代前期
23	瓜生堂遺跡	石剣の鞘	弥生時代中期	66	池上曽根遺跡	高杯	弥生時代中期
24	下田遺跡	剣の把頭	古墳時代前期	67	鬼虎川遺跡	台付鉢	弥生時代中期
25	下田遺跡	刀の把頭	古墳時代前期	68	木の本遺跡	台付槽	弥生時代前期
26	讃良郡条里遺跡	刀の把頭	古墳時代後期	69	東奈良遺跡	梳	弥生時代前期
27	讃良郡条里遺跡	刀の把頭	古墳時代後期	70	池上曽根遺跡	鉢	弥生時代中期
28	溝咋遺跡	鞘	古墳時代後期	71	恩智遺跡	小型鉢	弥生時代中期
29	讃良郡条里遺跡	鞍（後輪）	古墳時代中期～後期	72	池上曽根遺跡	把手付鉢	弥生時代中期
30	讃良郡条里遺跡	鞍（後輪）	古墳時代中期～後期	73	山賀遺跡	合子身	弥生時代中期
31	奈良井遺跡	馬のブラシ	古墳時代中期	74	山賀遺跡	合子蓋	弥生時代中期
32	奈良井遺跡	馬の鞭	古墳時代中期	75	雁屋遺跡	合子身・蓋	弥生時代中期
33	下田遺跡	素環頭把装具	古墳時代前期	76	鬼虎川遺跡	合子蓋	弥生時代中期
34	豊中遺跡	素環頭把装具	古墳時代	77	鬼虎川遺跡	合子蓋	弥生時代中期
35	久宝寺遺跡	素環頭把装具	古墳時代初頭	78	鬼虎川遺跡	合子（未成品）	弥生時代中期
36	下田遺跡	きぬがさの軸受	古墳時代前期	79	新家遺跡	合子（未成品）	弥生時代中期
37	西岩田遺跡	きぬがさの柄	古墳時代初頭	80	新家遺跡	槽	弥生時代後期
38	山賀遺跡	鳥形木製品	弥生時代前期	81	亀井遺跡	注口付盤	弥生時代後期
39	池上曽根遺跡	鳥形木製品	弥生時代中期	82	瓜生堂遺跡	把手付盤	弥生時代後期
40	池上曽根遺跡	鳥形木製品	弥生時代中期	83	新家遺跡	槽	弥生時代後期
41	瓜生堂遺跡	鳥形木製品	弥生時代前期	84	溝咋遺跡	箱身	古墳時代後期
42	雁屋遺跡	鳥形木製品	弥生時代中期	85	下田遺跡	四方軋びの箱	古墳時代前期
43	西岩田遺跡	舟形木製品	弥生時代後期	86	下田遺跡	箱側板	古墳時代前期
				87	下田遺跡	箱側板	古墳時代前期
				88	下田遺跡	箱側板	古墳時代前期
89	下田遺跡	箱側板	古墳時代前期	90	溝咋遺跡	刳物桶	古墳時代前期
91	下田遺跡	組物箱	古墳時代初頭	91	下田遺跡	組物箱	古墳時代初頭
92	久宝寺遺跡	槽	古墳時代中期	92	久宝寺遺跡	槽	古墳時代中期
93	讃良郡条里遺跡	槽	古墳時代中期～後期	93	讃良郡条里遺跡	槽	古墳時代中期～後期
94	讃良郡条里遺跡	仕切り付皿	古墳時代中期～後期	94	讃良郡条里遺跡	槽	弥生時代末～古墳時代前期
95	溝咋遺跡	槽	弥生時代末～古墳時代前期	95	溝咋遺跡	槽	弥生時代末～古墳時代前期
96	讃良郡条里遺跡	槽	古墳時代中期～後期	96	讃良郡条里遺跡	槽	古墳時代中期～後期
97	山賀遺跡	直柄斧柄	弥生時代前期	97	山賀遺跡	直柄斧柄	弥生時代前期
98	高宮八丁遺跡	曲柄斧柄	弥生時代前期～中期	98	高宮八丁遺跡	曲柄斧柄	弥生時代前期～中期
99	池上曽根遺跡	曲柄斧柄	弥生時代中期	99	池上曽根遺跡	曲柄斧柄	弥生時代中期
100	恩智遺跡	履柄斧柄・台	弥生時代中期	100	恩智遺跡	履柄斧柄・台	弥生時代中期
101	若江北遺跡	曲柄斧柄	弥生時代中期	101	若江北遺跡	曲柄斧柄	弥生時代中期
102	鬼虎川遺跡	鏝	弥生時代中期	102	鬼虎川遺跡	鏝	弥生時代中期
103	鬼虎川遺跡	鏡	弥生時代中期	103	鬼虎川遺跡	鏡	弥生時代中期
104	鬼虎川遺跡	刀子状木製品	弥生時代中期	104	鬼虎川遺跡	刀子状木製品	弥生時代中期
105	恩智遺跡	柄状木製品	弥生時代中期	105	恩智遺跡	柄状木製品	弥生時代中期
106	恩智遺跡	柄状木製品	弥生時代中期	106	恩智遺跡	柄状木製品	弥生時代中期
107	瓜生堂遺跡	柄状木製品	弥生時代後期	107	瓜生堂遺跡	柄状木製品	弥生時代後期
108	下田遺跡	鉈の柄	古墳時代前期	108	下田遺跡	鉈の柄	古墳時代前期
109	溝咋遺跡	刀子の柄	古墳時代後期	109	溝咋遺跡	刀子の柄	古墳時代後期
110	讃良郡条里遺跡	履柄斧（柄・台）	古墳時代後期	110	讃良郡条里遺跡	履柄斧（柄・台）	古墳時代後期
111	古室遺跡	鉄斧柄・身	古代～中世	111	古室遺跡	鉄斧柄・身	古代～中世
112	長原遺跡	タタキ板	古墳時代中期	112	長原遺跡	タタキ板	古墳時代中期
113	長原遺跡	当て具	古墳時代中期	113	長原遺跡	当て具	古墳時代中期
114	高宮八丁遺跡	組合せ式布巻具	弥生時代前期	114	高宮八丁遺跡	組合せ式布巻具	弥生時代前期
115	新上小阪遺跡	組合せ式布巻具	弥生時代中期	115	新上小阪遺跡	組合せ式布巻具	弥生時代中期
116	溝咋遺跡	柄状木製品	古墳時代前期	116	溝咋遺跡	柄状木製品	古墳時代前期
117	讃良郡条里遺跡	杵の軸	古墳時代中期～後期	117	讃良郡条里遺跡	杵の軸	古墳時代中期～後期
118	讃良郡条里遺跡	地機経巻具？	古墳時代中期～後期	118	讃良郡条里遺跡	地機経巻具？	古墳時代中期～後期
119	茄子作遺跡	高機かえし	古墳時代中期～後期	119	茄子作遺跡	高機かえし	古墳時代中期～後期
120	溝咋遺跡	総掛の軸	古墳時代後期	120	溝咋遺跡	総掛の軸	古墳時代後期
121	新上小阪遺跡	糸杵の支木	古墳時代後期	121	新上小阪遺跡	糸杵の支木	古墳時代後期
122	巨摩 1 号墳	椅子形埴輪	古墳時代中期	122	巨摩 1 号墳	椅子形埴輪	古墳時代中期
123	久宝寺遺跡	椅子	古墳時代前期	123	久宝寺遺跡	椅子	古墳時代前期
124	忍ヶ丘 1 号墳	彈琴埴輪	古墳時代後期	124	忍ヶ丘 1 号墳	彈琴埴輪	古墳時代後期
125	瓜生堂遺跡	机の脚	弥生時代後期	125	瓜生堂遺跡	机の脚	弥生時代後期
126	下田遺跡	椅子の座板	古墳時代前期	126	下田遺跡	椅子の座板	古墳時代前期
127	瓜生堂遺跡	椅子の脚	古墳時代初頭	127	瓜生堂遺跡	椅子の脚	古墳時代初頭
128	溝咋遺跡	椅子の脚	古墳時代後期	128	溝咋遺跡	椅子の脚	古墳時代後期
129	讃良郡条里遺跡	机の脚	古墳時代中期～後期	129	讃良郡条里遺跡	机の脚	古墳時代中期～後期
130	溝咋遺跡	机の脚・天板	古墳時代後期	130	溝咋遺跡	机の脚・天板	古墳時代後期
131	茄子作遺跡	机の天板	古墳時代前期～中期	131	茄子作遺跡	机の天板	古墳時代前期～中期
132	讃良郡条里遺跡	儀仗状木製品	古墳時代後期	132	讃良郡条里遺跡	儀仗状木製品	古墳時代後期
133	四ツ池遺跡	儀仗状木製品	弥生時代中期	133	四ツ池遺跡	儀仗状木製品	弥生時代中期

会期内行事

シンポジウム 「木器研究最前線！出土木器が語る考古学」

日 時：平成 19 年 3 月 4 日〔日〕 11:00～16:30

場 所：大阪府立近つ飛鳥博物館地階ホール

記念講演：「出土木器の見方」上原真人〔京都大学〕

研究報告：「農耕土木具の変遷」山口譲治〔福岡市教育委員会〕

「首長の所有物～精製容器・威儀具・武具～」樋上昇〔(財)愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター〕

「木工技術と木工具」飯塚武司〔(財)東京都生涯学習文化財団 東京都埋蔵文化財センター〕

ディスカッション：「出土木器が語る社会の変遷」

コーディネーター／山田昌久〔首都大学東京〕・黒須亜希子〔(財)大阪府文化財センター〕



財団法人大阪府文化財センター 小テーマ展示「シリーズ ここまでわかった考古学」

出土木器が語る考古学 ～弥生時代・古墳時代の諸様相～

主催／財団法人大阪府文化財センター・大阪府立近つ飛鳥博物館

後援／近畿日本鉄道株式会社

編集／財団法人大阪府文化財センター

発行／平成 19 年 3 月 3 日

〒590-0105 大阪府堺市南区竹城台 3 丁 21 番 4 号

印刷／株式会社 明新社

TEL/072-299-8791 FAX/072-299-8905

※本事業は、平成 18 年度文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業国庫補助金によるものです。